

上田から長野にかけて、特に屋代一帯の更植市付近は通称「あん

ずの里」と呼ばれ「一日十万本」といわれるようにあんずの花が群生して咲いていた。それは見事という他はなく、薄いピンク色の小さな花が車窓から見ている私に、かわいらしく微笑みかけてくれているようである。しかし、「美人薄命」のことわざにあるように、

この可憐な花の命は四月中旬のたった一週間だけで、あとは、実がなって七月頃収穫される。あんずの実は、この付近の重要な生産物のひとつで、ちなみに長野県は全国一の生産額をあげている。しかし、近頃、あんずは実だけでこの付近をうるおしているだけではなく、花によってもうるおしているのである。というのは、四月の中旬に一週間だけ咲くというあんずの花を一目見ようと全国から、特に関東地方から多くの観光客を呼ぶのである。往路の「信州一号」の中で同席した二人の初老の婦人達も「あんずの里」へ絵を描きに行くということであったし、戸倉・屋代・篠ノ井という「あんずの里」に近い駅で乗客は次々に降りていき、上野を発つとき満席で通路までもいっぱいであった車内がうそのようにすいてしまった。地元の変更市でもこのブームをほおっておく手はあるまいと思ったのか、あんずの花の咲く四月中旬の一週間で「あんずカーニヴァル」と銘打って観光客を呼びこんでいるようである。実は私も、オリエンテーション・キャンプに行く時に、一日前に東京を発って「あんずの里」に行こうかと思っただけではあるが、オリエンテーション・キャンプとは何であるかと思ひ、「あんずの里」巡りを断念したのが実状だった。しかし、今になってみると、やっぱり皆と一緒に「信州一号」で行ってよかったと思う。上野駅での二時間程度の待時間や、車内でかけがえのない友を知ることができたのであ

る。

これまで列車の窓から見た信州の早春の風景を書いてきたが、これは最初に書いた通り、あくまでも二次的な意義である。本来の意義は、歴史学科の内容を知り、先生や友との親睦をはかるということである。私は、このオリエンテーション・キャンプにおいて、充分にその意義は、はたされたと思う。野尻寮に着いた時の寮長先生の野尻湖付近のお話、夕食の後の各先生方のお話、特に葉貫先生の「歴史とは何ぞや。」と言われた時、改めて大学生になったという感激を味わった。その後で、駒沢大学の校歌を聞いて駒大生になってよかったと思った。二年も遠回りをして大学生になった私を、同じ年として見てくれて、仲間に入れてくれた新しい友は、私にとって最高の宝物である。最後になってしまったが、このキャンプを企画してくださった方々に声を大にして「ありがとうございます。」と言って感謝し、今年も百余人の希望参加だったが、来年こそは歴史学科全員が参加するように望みたいと思う。

印象の悪い先生

95番 坂田 恵子

「おはよう！ どうしたの？ 寝ぼろ、おそいじゃない。」オリエンテーションを終えたその翌日、玉川校舎に五分おくれ着いた私にたくさんの顔がそう呼びかけた。授業が始まってまだ二日というのに、多くの顔が私に微笑みかけてくれる。もう私には仲間がたくさん。友達がたくさん！

新潟から出て来た私にとって、初めての都会生活・大学生活は孤独きわまりない。話し相手もなく、一人ぽつんと大学に来て、また

淋しく下宿に帰る。とうぶんこんな生活が続くと思っていたのに!!

四月十七・十八日。忘れることのできない重大な日である。それは十七日の七時半から始まるのである。

私が上野駅に着くともうかなりの人が駅のホームにならんでいた。私もその後ろに並ぶ。九時半の電車の時間までにはずいぶん時間がある。だんだんまわりの人々と話をし始める。みんな楽しい人なんだなあ、ずいぶん親しくなったと思つたところに電車が着き、それに乗る。楽しい話はまたつづき、やがて野尻寮へ……。

寮に着くと部屋割りも終えて、ひとりひとり(八人だけ)自己紹介。京都の人、山形の人、小田原の人、千葉の人、……etc。遠くから来ているのは自分だけじゃないんだなあなんて、おかしなところで感心し、又安心した。

夜、クラスごとにわかれてオリエンテーション。私、葉貫先生。

私にとって、三人の先生(阿部・葉貫・所)の中で一番第一印象の悪い先生(ゴメンナサイ)であったから、複雑な気持ちで席につく。

がしかし目の前にあるたくさんのお菓子と果物と、ホンのちよつぴりのワインで気もおちつく。ところがなんとこの先生、校歌なんぞを歌い出し、ついでに応援歌も歌い出しまつた。面白くない先生でひと安心。この安心もつかの間前の人とジャンケンをし、負けた人に歌を歌えなんぞといひ出しまつ。全く「負けそ」てなもんである。『鉄人28号』を歌つたり、突然天地もこわれんばかりの大きな声で高校時代の応援歌を歌う人。まったくなごやいだムードで楽しいひと時を過ごし、同時に同じクラスの人々の顔を覚えもした。このオリエンテーションがなかったら、私はずっと葉貫先生を悪い印象のままであけておいていただろうし、人々の顔を覚えるのに

も何日かかっただろう。

それも終り各自部屋にはいる。夜はこれから。同室の友達が集まり雑談・トランプ・大学後の進路などと、遊びつつも、ぐーんと真面目な話しをしたりした。こうやって夜の夜中まで起きて話しをしていたためか、お互いの距離がぐーんとちぢまったような、そんな気がした。

翌朝、もう東京に帰るのかと思うと野尻までの距離があまりにも遠過ぎたように思い、これは不可能に近いことではあるが、もう少し近い所でオリエンテーションが出きないものかと思つた。でなければもう一泊などと思つたりもした。

しかし雄大な黒姫山を見ていると目のほんの小さなことにこだわらずに、大きく、未来を見つめつつ大学生活を送りたいものかと思ひ、野尻湖の発掘の話聞けば、未知の物への計り知れない興味と魅力を感じたりした。

また大学生活は高校生活とは根本的に「自由」というものがその範囲を著しく違へ、「自由」ということで自分を甘やかせることなく、墮落することなく、自分自身の本当にやりたいことを追窮し、追究しなければいけないのだなあとも思つた。

帰りの電車、もうずいぶんとお友達が出来た。何の緊張感もなく、打ち解けて話し遊べるようになった。いく日もかからなければこれだけ多くの人々とお友達になることは出来ないであろう。それをたつた二日でやってのけたのだから、それだけでもうこのオリエンテーションは価値の高いものであると思う。

また歴史学科の先生を、自分の担任、担任でなくとも、どんな顔で、どんな感じの先生であるかということを知つただけでも、私に

歴史学科を親しみのもてるものとしてくれた。大学生活で心配・疑問などがあつたら先生の所へ相談に来なさい。と先生方口を揃えておっしゃる。そう言われると何かあつたら相談に行こう！なんて思つたりした。

田舎出の私には、大学生活への不安が消える思いでもあつた。

たつた一泊二日の野尻寮でのオリエンテーションではあつたけれど、私には密度の濃いものであつた。来年の新入生にもやってほしいと思ひます。

その時には若干めんどうかもしれませんが団体券はとれないものでしょうか？ もしとれるとずいぶん安くなると思うのですが？

もう一点、クラス別の話しや、お遊び時間をふやしていただきたいように思ひます。

私にこれだけ実り多いオリエンションを開いて下さつた先生方・助手の方・野尻寮の皆様方に厚くお礼申し上げたいと思ひます。

野尻で見た「天と地と」

96番 石戸敏弘

手許に地図が無かつたので、確かな事は分から無かつたが、碓井峠の北は浅間山に始まり上越国境谷川岳辺りに至る上信越高原国立公園であり、南は妙義・荒船国定公園であると考えていたので、高崎からは窓外の景色に注意を払う様になつていった。列車は暫く走ると安中という駅に着き、此の辺りから山の気配が身近に感じられて来たが、其れ以上に此の駅名からは鉾野の臭いが鼻を突いて来た。横川からは信越本線最大の難所といわれる碓井峠に取り着く。

窓の外を見るまでも無く列車が坂を上つているのが分る程の傾斜である。沢山の隧道を抜け、其の間に望める深い谷は凄絶の感があつた。軽井沢より先は峠の釜めしを相手にしている時が多かつたが満開の桜が目を楽しませてくれた。上田を出ると直ぐ、右手至近距離に近世初真田氏の居城であつた上田城の隅櫓らしき三棟の二層櫓が見えて来た。長野で急行を降り、普通電車に乗替えたのであるが、此の電車は戦前に山手線を走っていた様な車輛で、床は玉電の様に板張りで、外板を釘で止めてある所等は山中を走る電車の趣が十分に味わえた。

野尻湖は思ったより駅から近く、風光明眉の静閑な湖という感はなく、俗化された只の貯水池という感が第一印象であつた。何故此の様な印象を私が得たかを考えてみると、私が田舎に居た頃汽車に何時間も揺られて行つた所は、明らかに野尻湖より自然であり、更に其処から目的地へは何時間か歩いて行つたものであつた。然しバス停より寮の方へ歩くに従つて徐々に自然を取り戻して来た。寮から見る湖は思ったより広く、湖面に浮かぶ弁天島の赤い鳥居を見、高校の修学旅行で行つた白樺湖を思い出し、余りに似ているので、驚いたが、今度の島は上杉輝虎の将宇佐美定行の墓があると聞き、七、八年前にテレビで見た「天と地と」を思い出した。

寮の夕食は美味しく、特に飯が好きなだけ食べられたのは嬉しかつた。時間が前後しますが、寮に入つて直ぐ寮長先生の話があり、ナウマン象の化石が湖から出、発掘が流行つてゐる、磨製石器が出て来た、野尻湖は元来自然湖であつたが現在では人工湖の様になつてゐる、等を聞いた。二個の石器に触れる事が出来、殊に包丁の様な格好をした物は明らかに獣の皮をさく事が出来ると、私の身をも